

風のひろば

December

2022

vol.21

プライマリ領域に

重点を置いた

修士課程NPコース

カリキュラムの改定

「ウィズコロナ時代の

新たな医療に対応できる

医療人材養成事業」の

採択を受けて

大学の今

トピックス

看護学実習を終えて

卒業生・修了生

インタビュー

研究紹介



プライマリ領域に重点を置いた 修士課程NPコースカリキュラムの改定

NP教育・事業推進チーム

(チームリーダー／看護アセスメント学研究室)

藤内 美保

(NPコース担当専任教員)

甲斐 博美

令和5年度から、NP (Nurse Practitioner)

コースは新しいカリキュラムで教育します。

プライマリ領域のNP教育を強化し、効果的・効率的な教育運営に努め、地域枠(本学卒業生を含む)の充実を図ります！

1. カリキュラム改定の経緯

本学は、平成20年(2008年)に、全国に先駆けて大学院修士課程でNP教育を開始しました。当初は、45単位以上を修了要件にしていますが、修了生や指導者の意見から、3P (Physical Assessment: フィジカルアセスメント、Pharmacology: 薬理学、Pathophysiology: 病態生理学)を強化するため、平成22年度に50単位以上、平成25年度に55単位以上としました。その後、保健師助産師看護師法が改正され、「特定行為に係る看護師の指定研修制度」が平成27年10月に創設された時に、逸早く21区分38行為の特定行為研修をNP教育に組み込みました。タイムリーな症状マネジメントができることを期待したためです。NP教育を開始して15年目を迎えたことから、アドミツション・ポリシーも含めて、抜本的な見直しを行いました。

これまでのNP教育で素晴らしい修了生を輩出してきたことは、本学の誇りです。修了生は地域密着型病院、500床以上の病院、訪問看護ステーション、老人保健施設などの様々な場で能力を発揮し、療養者やご家族を支えるとともに、そこで働く看護職全体の向上に寄与していることも明らかになっています。タスクシフト・タスクシェアと言われる時代に、NPの社会的ニーズはさらに高まり、本学においてもNP教育体制とともにNP教育を見直すこととしました。

2. カリキュラム改定のポイント

1) プライマリNP教育の強化

本学が全国で初めてNP教育を開始した動機は、医療サービスが不足しがちな住民に、速やかに医療や看護を提供したいという思いからでした。医師と連携しながら住民への医療サービスができることを目指し、プライマリ領域で活動するNPを育成するという当初からの教育理念を堅持し、さらに強化・発展させたいと考えました。プライマリ領域は、人材育成や医療提供体制を整備する必要性がまだまだ高い状況にあります。大分県にも多くの無医地区や過疎地域があり、医師や多職種と連携し、患者さんやご家族の健康維持・増進、疾病予防、症状マネジメントに貢献できることを目指しています。

プライマリ・ケアの概念として、プライマリ・ケア連合学会は、包括性、近接性、協調性、責任性、継続性の5つを基本理念として掲げています。プライマリ領域のNPには、「包括性」という理念に基づく予防から治療までの実践能力が求められています。新カリキュラムで育成するNPは、対象の年齢を問わず、Common diseaseを中心とした初期対応や、継続的な症状マネジメントのための臨床推論、臨床判断能力のさらなる強化を図ることとしました。

そこで、新カリキュラムの修了要件としてプライマリNPに関する科目や内容を増やしました(資料1)。また、プライマリNPとして活躍する修了生に非常勤講師としてご協力いただくよう計画しています。特定行為研修についても、今までは、21区分38行為全てを網羅しておりましたが、プライマリ領域に必要な特定行為を精査し、修了生の活用状況も考慮しながら、17区分31行為に絞りました(資料2)。

2) 効果的・効率的な教育運営の整備

日本NP教育大学院協議会で養成するNPは、大部分が老年NPですが、本学では、地域医療では小児領域と成人を含む老年領域の両方が必要だと考えたこと、また米国では小児NPから始まったことを考慮し、老年と小児の両方の領域でNP養成を行ってきました。今回のカリキュラム改正では、一次医療も担えるプライマリ領域をスペシャリティとし、老年、小児はサブスペシャリティという考え方で、老年も小児も包括的に対応できる能

力を育成する教育編成としました。そこで、老年と小児の共通の科目を1科目から10科目に増やしました。例えば、看護アセスメント演習や臨床薬理学特論、臨床薬理学演習、NP探求セミナーなどは、老年・小児領域の両方の学生が学び、それぞれの立場からディスカッションをすることで、学ぶ幅も広がり、効果的で効率的な教育が期待できると考えました。

3) 地域枠の充実

本学のNPコースは、10名の定員のうち5名を地域枠として設定しています。本学の卒業生や修了生も地域枠の該当者となります。地域枠はより大分県内で活躍するNPの推進を図るためです。令和4年3月現在の修了生は69名となり、そのうち県内で活動しているNPは30名です(資料3)。NPの活躍の場は、大分市や別府市だけでなく、国東市や杵築市、津市、臼杵市、津久見市、佐伯市、豊後大野市、竹田市などに広がってきています。県内全域、各地域で複数のNPが活動することを目指して、NP養成を推進していきます。そのため、地域枠の要件を改正し、アドミツション・ポリシーに「大分県の医療への貢献」を明示すると共に、入試方法も面接重視に見直しました。今後は、受験生のリクルートや修了後の就職および活動支援、卒業研修や奨学金制度なども充実させていく必要があります。地域枠のNP学生を育成し、大分県の地域全体にNP修了生が行き渡り、病棟や外来、訪問看護ステーション、老健施設などで活躍できることを目指しています。

3. 地域の方々に支えられているNP教育

本学のNP修了生は、地域密着型病院、訪問看護ステーション、老人保健施設等で、プライマリ領域のNPとして活躍しています。慢性経過の患者さんはもちろんですが、急変や急性増悪などの対応能力、また500床以上の大規模病院やクリティカル領域でも働いています。このような幅広く多様な患者や場面での対応能力は、NP教育はもちろんですが、修了生自らの努力、また修了生を支える周囲の指導者、支援者のお陰と感謝しています。

今後も、エビデンスに基づく臨床推論能力や問題解決能力をさらに高められるNPの人材を育成し、ICTやシミュレーション教育を充実させ、臨床推論能力を鍛えたいと計画しています。そして、NP教育で忘れてはならないことは、看護職としてのアイデンティティをもち、人を常に尊重し、患者・ご家族に寄り添い、生活状態や心情を考慮し、一歩踏み込んできめ細かい対応や困難な状況を共に考える姿勢や倫理観を醸成することです。NPとして活動するために、患者さんやご家族、医療スタッフなどと信頼関係を形成できることが基盤であり、このような資質をもった方々にNPを目指していただくことが願いです。

看護の心をもち、臨床推論能力に強いNP修了生が日々奮闘していることは、私どもの誇りです。これも実習施設の指導者、ご協力いただいている全ての方々、そしてNP修了生自身の努力の賜です。「NP教育のためなら、何でも協力します」と快く言ってくださる多くの方々から、本学のNP教育が温かく支えられている

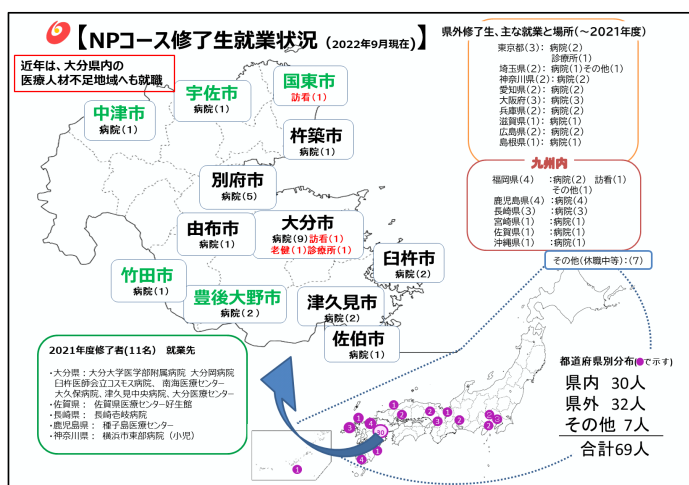
と思います。心から感謝申し上げます。2022年度NP教育・事業推進チームメンバー

- 藤内美保（チームリーダー／看護アセスメント学）、甲斐博美（NPコース担当専任教員）、森加苗愛（老年コース責任者／成人老年看護学）、草野淳子（小児コース責任者／小児看護学）、濱中良志（生体科学）、石田佳代子（看護アセスメント学）、吉田成一（生体反応学）、宮内信治（言語学）、堀裕子（成人老年看護学）、足立綾（小児看護学）、宿利優子（成人老年看護学）、橋本志乃（小児看護学）、大島操（NPコース担当）、吉村幸永（NPコース担当）、神崎純子（看護研究交流センター事務局員）、岡田浩明（事務局長）、村嶋幸代（学長）

科目	授業科目	配当年次	単位数		修了要件
			必修	選択	
専門科目	NP特論※	1	1		老年 NP、小児 NP いずれか 選択した 2 方の全ての科目を 必修とする
	プライマリ NP 演習※	1	1		
	NP実践特論 ※	1	2		
	診療診断学特論 ※	1	1		
	アセスメント学演習※	2	1		
	臨床実理学特論 ※	1	3		
	臨床実理学演習※	2	2		
	臨床安全実践演習	1	2		
	特定行為実習	1	3		
	NP探究セミナー	2	1		
老年 NP	老年疾病特論※	1	2		老年 NP、小児 NP いずれか 選択した 2 方の全ての科目を 必修とする
	老年 NP 実習 I	2	2		
	老年 NP 実習 II	2	2		
小児 NP	小児疾病特論※	1	2		老年 NP、小児 NP いずれか 選択した 2 方の全ての科目を 必修とする
	小児 NP 実習 I	2	2		
	小児 NP 実習 II	2	2		
共通科目	生体科学特論 ※	1-2	2		36 単位
	病態生理学特論※	1-2	2		
	フィジカルアセスメント特論 ※	1-2	2		
	薬理学特論	1	1		
	看護科学研究特論	1	2		
	看護心理学特論	1-2	2		
	看護理論特論	1-2	2		
	看護教育学特論	1-2	2		
	看護コンサルテーション論	1-2	2		
	看護倫理学特論	1-2	2		
	看護政策論	1-2	2		
	健康増進科学特論	1-2	2		
	健康社会科学特論	1-2	2		
	英語論文作成概論	2	2		
特別研究	原書読論演習	1	2		14 単位以上
	課題研究	1-2	3		
計					55 単位以上

※) の科目の単位を修得できていない場合は、原則NP実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修ができません。
*) は選択科目であるが、NPコースは履修することが望ましい。

資料 1



資料 3

区分	特定行為研修	パッケージとオプション	コアP/コアP1	必要となる特定行為	
1 呼吸器 呼吸器療法	1 経口呼吸管チューブ又は経鼻呼吸管チューブの位置の調整	在宅・慢性期	数値P	オプション	
	2 呼吸器の湿気の設定の変更				
2 呼吸器 人工呼吸療法	3 非侵襲的陽圧換気療法の変更設定				
	4 人工呼吸器管理が可能な1名以上の患者に対する観察時の投与量の調整				
	5 人工呼吸器からの離脱				
3 呼吸器 気管挿管療法	6 気管カニューレの交換				
	7 一時的ペースメーカーの操作及び管理				
4 循環器 循環器療法	8 一時的ペースメーカーリードの抜去				
	9 経皮的経心臓補助装置の操作及び管理				
	10 大動脈内カテーテル/カテーテルからの離脱を行なう補助装置の調整				
	11 心臓カテーテルの抜去				
6 循環器 心臓カテーテル療法	12 冠経路内挿管導引線の設置及び抜去の変更				
	13 冠経路カテーテルの抜去				
7 循環器 心臓カテーテル療法	14 冠経路カテーテルの抜去(冠経路内に留置された穿刺針の抜去を含む)				
	15 経心臓カテーテル/カテーテルからの離脱を行なう補助装置の調整				
8 心臓カテーテル療法	16 経心臓カテーテルの交換				症例数免除
	17 中心静脈カテーテルの抜去				
10 救急 救急P	18 実習型中心静脈注射用カテーテルの挿入				
	19 腫瘍は慢性閉塞性肺疾患における血腫のない経気管支的腫瘍の除去				症例数免除
11 救急 救急P	20 創傷に対する閉鎖性創傷療法				
	21 創傷ドレナージ				
13 救急 救急P	22 直接動脈穿刺法による採血				
	23 骨髄腔注射法の確保				
14 救急 救急P	24 止血剤を7歳以上の患者に投与する際の投与量の調整				
	25 持続点滴中の高カリウム血症の投与量の調整				症例数免除
15 救急 救急P	26 脱水症状に対する補液による補正				症例数免除
	27 感染徴候がある患者に対する薬剤的臨床的投与				
17 救急 救急P	28 シンシリンの投与量の調整				
	29 経心臓カテーテルによる観察時の投与及び投与量の調整				
19 救急 救急P	30 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整				
	31 持続点滴中のナリウム、カルウム又はカロールの投与量の調整				
	32 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整				
	33 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整				
20 救急 救急P	34 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整				
	35 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整				
20 救急 救急P	36 抗精神病薬の臨床的投与				症例数免除
	37 抗不安薬の臨床的投与				症例数免除
21 救急 救急P	38 鎮静剤の臨床的投与				
	39 鎮静剤の臨床的投与				

資料 2

「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応 できる医療人材養成事業」の採択を受けて

実習室近代化タスクグループリーダー

(基礎看護学研究室 教授)

廣田 真里

文科省では、新型コロナウイルス感染拡大の影響で臨床実習の中止や縮小などを余儀なくされている医療人材養成課程の学生たちの学習補完としてDX(Digital Transformation)を活用したオンライン教育やシミュレーション教育の向上を図るための経費を、令和3年度の補正予算に計上しました(「ウイズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」文科省高等教育医学教育課 令和3年12月23日付け)。DXとは、デジタル技術を用いて教育・ビジネス・生活を改善していくことです。令和3年12月末公募が発出され、補助上限は「実習等に資するシミュレータ等のDX設備整備」として看護学部1千万円/1校、選定件数は130件程度ということで、本学でも早速応募することとなりました。

①看護シナリオトレーニング用シミュレータ
このシミュレータは顔色が変わり、会話も可能、呼吸音や心音も聴取でき、生体情報を多角的に設定し臨場感を高めることができます。このシミュレータを活用することで視覚・聴覚・触覚を総動員して患者のアセスメントに必要な情報収集を行い、それらを統合して必要な看護を考えるための演習が可能となります。学生はこの演習を通して思考力や臨床判断力を身に付けることができますと期待しています。

②動画収録・データ管理システム
撮影・録画機能のあるモニターを導入し、教師や学生のデモンストラ
斥の通知が届き、3つのシステム合計で9,658千円が満額獲得できました。(A)
令和4年7月19日にシステムが搬入され、8月と9月に2回説明会を実施しました。システムの概要は以下の通りです。
③動画配信システム
動画配信設備を導入し、いつでもどこでも繰り返し視聴できるため、事前学習はもとより、演習中にもグループで画像を確認でき、さらに演習後の復習にも活用できます。自分たちの映像を確認することで、実施中には気づかなかった対象者の反応や自己の提供したケアを客観的に振り返れることで、技術の習得はもとより、看護師としての態度の習得にも役立つことが期待できます。

DXを活用した学習環境を整備し、反転授業とアクティブラーニングを併用することによって、主体性、積極性を促して思考力や判断力、実践力の向上をめざして、授業に積極的に活用できると考えています。そして、これらのシステムが、臨地実習時間の短縮による学びの補充や、対象者とのスムーズなコミュニケーションの一助となることを期待しています。このシステムを活用し、バリエーション豊富な演習を活発に進めていきたいと思えます。



看護理論演習にて



生活援助技術論にて

法人評価委員会にて「S評価」を獲得

令和4年度大分県地方独立行政法人評価委員会が、7月28日（木）に大分県庁で開催されました。昨年度は6年間の中期目標期間の4年目に当たするため、年度計画と中期目標の達成状況に加え、中期目標の達成見込が評価されました。毎年、自己点検・評価委員会と事務局が中心となって、業務の実績に関する報告書をまとめ、理事が県内外の教育界や経済界からの5名の外部評価委員を個別に訪問して実施状況を説明します。法人評価委員会当日は、外部評価委員と本学を所管している大分県の医療政策課、事務局を務める行政企画課、そして本学からは理事長、理事、事務局5名が出席しました。はじめに、村嶋理事長が本学の概要と令和3年度計画の実施状況等を報告し、その後、評価委員からの質問を受けました。58項目の中期計画に基づいた120項目の年度計画の実施状況に基づいて評価された結果、特に、職員や学外理事等の意見を踏まえた学長・理事長のリーダーシップ、令和4年度新カリキュラムの改善と準備、養護教諭養成、学習環境のICT化、国家試験合格100%の継続、県内就職率の増加、エビデンスに基づいた人員配置や研究室の新設、COVID-19の感染状況に臨機応変に対応した授業、会議、地域・国際交流等のオンライン化、外部資金獲得、授業料滞納の改善等が高く評価され、中期目

標及びその達成見込共に、5つの大項目のうち「教育研究等の質の向上」と「業務運営の改善及び効率化」の2つでS評価（特筆すべき進捗状況）を頂きました。また、その他3つの大項目（「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他」）でもA評価（計画どおり）を頂き、前年度以上の高い評価となりました。今後も、学生や地域にとって魅力ある大学づくりに向け、積極的に工夫や改革を進めて参ります。

卒業生の就職進路動向

丸3年を迎えるCOVID-19ですが、大学では流行の状況に合わせ、実習施設のご協力のもと実習や演習を切り替えてつづ、日々看護職としての学びを深めているところです。令和3年度の就職進路状況は、別表のとおりです。卒業生81名の81.5%が就職し、16%が進学しました。県内就職率は54.5%で令和2年と比較すると増加しました。県内の大分県立病院、大分大学医学部附属病院、大分赤十字病院等、実習でお世話になっている病院や、更に、新別府病院、湯布院病院など地域医療を担う病院への就職が増えました。

現在、就職・進路支援委員会では、早期から幅広く進路への興味関心を育てるため、1年生に大学ナビを、2年生、3年生には就職進路ガイダンスをしています。県民の医療を支え地域に密着した医療機関や施設で働く卒業生や看護部長を招いて、日頃の看護活動を語っていただくことで、看護の魅力を伝えていきます。

学生は自らの進路を自ら選択していくのですが、今後も本学卒業生が大分県の地域医療を支える看護職として活躍していけるように支援していきたいと考えています。

Information [お知らせ]

「未来応援基金」ご寄附のお願い

「未来応援基金」は、大分県立看護科学大学創立20周年を契機に、学生の学業の継続や地域との連携、国際化・グローバル化への対応等、学生・大学院生の活動を支援するために設置された基金です。

確かな看護の力で地域の保健医療を牽引し、より良い社会を創造する看護職を育成するために、皆さまの温かいご支援を心からお願い申し上げます。

目的

学生の学業の継続や、地域連携の更なる充実、国際化・グローバル化への対応等、学生・大学院生の活動を支援し、その充実に努めることを目的とします。

用途

皆さまからいただいたご寄附は、学生・大学院生の支援のため、下記事業に活用させていただきます。

- (1) 学業の継続(奨学金の給付、授業料等の減免等)
- (2) 地域連携(地域貢献活動への支援、地域の保健医療機関での研修支援、自治体・地域・企業と連携した研究教育等)
- (3) 国際化・グローバル化への対応(短期留学、国内外での活動、研修派遣等)
- (4) その他、基金の目的達成に必要な学生・大学院生の活動支援

寄附金額

金額は特に定めておりませんが、1口1,000円として何口でも可能です。基金の趣旨にご賛同くださる方ならどなたでもご寄附いただけます。

ご寄附の方法

大学ホームページ(<http://www.oita-nhs.ac.jp>)掲載のフォームからお申し込みいただくか、本学事務局まで電話にてご連絡をお願いします。

お問い合わせ先

大分県立看護科学大学未来応援基金事務局
(大学事務局総務グループ内)
TEL : 097-586-4300(代表) FAX : 097-586-4370
E-mail : somu@oita-nhs.ac.jp

令和3年度 卒業生進路状況 令和4年4月1日現在 [学部生]

1 進路決定状況(81名)

就職	決定	66名	97.1%
	未定	2名	2.9%
進学	決定	13名	100.0%
	未定	0名	0.0%

2 就職先内訳

(1) 地域別

大分県内	36名 <small>(県内出身者27名+県外出身者9名)</small>	54.5%
大分県外	30名 <small>(県内出身者18名+県外出身者12名)</small>	45.5%
計	66名	100.0%

(2) 就職先

独立行政法人等	27名	40.9%
都道府県	6名	9.1%
市町村	4名	6.1%
民間	29名	43.9%
その他	0名	0.0%
計	66名	100.0%

大分県内	大分大学医学部附属病院、大分県立病院、新別府病院、湯布院病院、大分赤十字病院、アルメイダ病院、三愛メディカルセンター、長門記念病院、大分県地域成人病検診センター、大分中村病院、竹田医師会病院、佐伯市立佐伯南中学校
大分県外	虎の門病院、九州がんセンター、福岡市立こども病院、九段坂病院、横浜栄共済病院、横須賀共済病院、日本医科大学武蔵小杉病院、京都大学医学部附属病院、国立循環器病センター、大阪市立大学医学部附属病院、島根大学医学部附属病院、岡山済生会総合病院、岡山大学附属病院、山口大学医学部附属病院、九州医療センター、九州大学病院、九州中央病院、浜の町病院、小倉記念病院、飯塚病院、福岡赤十字病院、福岡和白病院、済生会熊本病院、佐賀県教育委員会(白石町立福富小学校)、山陽小野田市立龍王中学校

4 進学先内訳

大分県立看護科学大学大学院 13名
(広域看護学コース8名、助産学コース5名)

■2022年度看護国際フォーラム

10月29日(土)に第24回看護国際フォーラムを大分県看護協会と共催で、オンラインにて開催しました。「Withコロナの経験から得た知見-未来志向で考えるシームレスな新人教育の在り方-」をテーマに、大野かおり先生(兵庫県立大学看護学部 教授)、岩間恵子先生(米国 ペース大学看護学部 助教)にご講演いただき、参加者は200名を超えました。講演や質疑応答を通して、今、求められるシームレスな新人教育の在り方について考える貴重な場となりました。



■第37回ななせの里まつりで健康・体力チェックを行いました

11月6日(日)に、のつはる天空広場で、第37回ななせの里まつりが開催されました。本学からは、学生19名、学長と健康増進プロジェクトの教員2名が参加しました。当日は見事な晴天で、学生が実施した健康・体力チェックには、910名もの方々に参加して頂きました。

について講演を行い、続いて、腸のスペシャリストである小林弘幸先生(順天堂大学医学部 教授)より、日常生活で実践できる方法等も交えながらご講演いただきました。107名の方に参加いただき、今後の生活に活かしたい等の前向きな感想が多く寄せられました。



■わかば老人クラブで体力測定を行いました



9月24日(土)に、わかば老人クラブで体力測定を行いました。1年次生14名が参加して測定を行わせていただきました。測定後、健康運動学研究室の稲垣教授より自宅で簡単にできる体操について講話を行い、恒例のスカットボール大会に学生と教員も参加させていただきました。

■Webオープンキャンパス

7月16日(土)にWebオープンキャンパスを開催しました。高校生を中心に約160名の方々にご参加いただきました。大学紹介や入試概要説明の他、本学在学学生からのメッセージや合格体験談、さらにはLIVE配信限定企画の本学教員による模擬授業を実施しました。

■2022オンライン国際交流

8月9日(火)に国際交流協定締結校である韓国のInha大学と「2022オンライン国際交流」を開催しました。双方の大学から各28名、計56名の学生が参加しました。

大学紹介等のプレゼンテーション後、小グループに分かれて交流しました。参加学生からは、「すごく楽しく、刺激をもらった。良い経験になった」「外国の友達ができただけでいい機会になった」「韓国の文化により興味を持つきっかけになった」など、沢山の感想が聞かれました!

■令和4年度公開講座

9月10日(土)に「腸活!腸から元気になろう-免疫力をアップする心と体のつくりかた-」と題し、オンラインで公開講座を開催しました。まず、吉田准教授(本学生体反応学研究室)より腸内細菌の種類等の基本的な事項

看護学実習を終えて

4年間の実習を終えて、私は在宅看護論実習が最も印象に残っています。この実習を通して、「患者の意思を尊重した看護」について学びを深めることができましたと考えます。

在宅看護では利用者の自宅で看護を行うため、本人や家族の生活に合わせた看護を考えていく必要があります。たとえ看護師が必要と思っただけケアやサービスがあったとしても、利用者が望んでいなければ必要ではありません。看護師の考えや価値観を押し付けてしまうのではなく、本人と家族の双方が満足できるような看護とは何かを考えることが重要であると学びました。そのためにも、本人や家族に適したタイミングでそれぞれに合った説明を行い、少しでも残された時間を大切に過ごしてもらうことも重要であると考えます。

また、在宅看護では病棟のように24時間看護師がいるわけではないため、限られた時間や訪問回数の中でケアを行う上で、強みを見つけていくことの大切さについても学びました。私自身受け持ち利用者の家族に対して、初めはできていないことばかりに着目し、それらを改善する方法を考えていました。しかし、今できている部分を伝え、家族に寄り添った声かけをしていくことで安心感を抱いてもらい、少しずつ介入する部分が増えていく場合もあると学ぶことができました。

これらの学びを生かし、どの場で看護を行うとしても本人の意思を尊重し、それぞれの価値観や生活に沿って個性のある看護を考えられるようにしたいです。

4年次生 中川 侑紀



基礎看護学実習では、受け持ち患者さんとのコミュニケーションを通して、身体面、心理面、社会面から対象を捉えた記録を作成し、そこから導き出した患者さんのニーズに合う看護を実践することに取り組みました。

実習前は、初めて1人の患者さんを受け持つという不安が凄く強かったです。しかし、実際に患者さんとベッドサイドで、病気に対する思いやご家族のお話、お仕事のお話など、たくさんコミュニケーションをとることができました。適切な患者理解のためには、目の前の患者さんを入院患者という視点だけでなく、社会の中で生きている1人の人間として捉えることの必要性を学ぶことができました。

私が最も印象に残ったことは、受け持ち患者さんと病棟内歩行を行ったことです。腹腔鏡手術後で離床が進まず臥床傾向となっていた患者さんに対して、病棟内歩行の目的や方法を説明し、実際に20分ほど病棟内歩行を実施しました。実施後に患者さんから「午後もう1回歩こうか」という発言があり、歩行へ前向きな意欲を持っていただくことができて、とても嬉しく感じました。

12月には、看護アセスメント実習が予定されています。本実習で学んだことを生かし、看護過程の展開を実践できるようになりたいです。

2年次生 本多 詩乃





大分市立横瀬小学校
養護教諭
関 栞奈

日々の学校生活や学校行事を行う上でどのようなことに気を付けなければならぬのか等、養護教諭としての意見を求められることもあるので、日々最新の情報を取り入れるようにしています。

私は平成31年度に本学を卒業しました。現在は、養護教諭として大分市立横瀬小学校に勤務しています。学生時代は、看護師免許の取得に加え、養護教諭免許取得を目指し、講義や実習に励みました。

養護教諭として勤務し始めた年度末から新型コロナウイルス感染症が流行し、今までは違う「新しい生活」に戸惑う日々でした。学校の規模や地域によって対応はバラバラで学校の実態に合わせた感染症対策をするのはとても負担でした。

学校では、毎日の健康観察や、マスクの着用、手洗い、換気、消毒などを行いました。どのようにすればこれらのことを毎日きちんと続けてもらえるのか、そして児童自身に健康への意識を高めてもらえるのが難しいと感じていましたが、家庭や先生方の協力のもと、全員が感染症対策を意識した学校生活を送ることができていると感じています。また、コロナ禍の中、

保健室には、けがや体調不良をはじめ、様々な困りを抱えて来室する子どもたちが多くいます。そんな中で、保健室で対応をしていて特に感じていることは、救急処置の重要性です。緊急搬送の必要のある児童や顔面や頭部の怪我など重症度の高い児童が多く、適切な応急処置や受診の必要性の判断は養護教諭として自信を持ってできなければならぬと実感する日々です。在学中に講義や実習で学んだアセスメント力を活かして対応にあたっていると実感しています。

養護教諭は、子どもたちを温かく受け入れることはもちろん、時には力強く背中を押してあげることも必要だと思います。けがや体調不良をはじめ、様々な困りごとを抱えて来室する子どもたちの心身に、どのように寄り添って支えていくのか模索する日々です。これからも子ども一人ひとりにしっかりと見つけ、多面的に支えることができる養護教諭を目指して精進していきます。

Research introduction



研究紹介

高齢者が日常的に自覚する「眩暈」を扱う複数の文献から導き出された「眩暈の関連要因」

眩暈(めまい)は健康な人であっても起こり得るもので、地域で生活する高齢者の約3割が日常的に自覚するほどにありふれた症状です。しかし、転倒や骨折、寝たきり状態などの重篤な状態と関連することが報告され、健康寿命を脅かす要因として決して軽視できないものでもあります。それにも関わらず、予防や治療に繋がる議論が十分になされてこなかったのは、眩暈の種類や原因が多様で、それらを特定しにくいことから、「医学的に診断を受けた眩暈」ではなく「主観的に感じた眩暈」のデータが多いことなどが挙げられます。

私は眩暈予防の可能性を広げるために、あえて高齢者が「主観的に感じた眩暈」に注目し、眩暈を調査した文献を幅広く収集しました。最終的に10編の海外の文献が抽出され、文献中に示された結果を基にメタ解析を実施し、眩暈に関連した項目ごとの関連の強さを示す相対リスク比(Relative Risk:RR)を算出しました。その結果、有意な関連要因として27項目が見出されました(関連が強い順…不安感、疲労感、硝酸薬の使用、抗不安薬の使用、主観的健康感が低い、記憶障害、抑うつ、睡眠障害、認知症、悪性新生物、バランス機能の低下、歩行機能

の低下、身体機能の低下、利尿薬の使用、独居、心疾患、転倒歴、関節リウマチ、睡眠薬の使用、複数の薬剤使用、視覚障害、女性、日常生活動作レベルの低下、骨粗鬆症、降圧薬の服用、高血圧、就学年数が短い)。

この解析では因果関係を解明できるわけではなく、あくまでも関連の強さを示したに過ぎません。具体的な予防策の提案には多くの課題がありますが、この27項目が今後眩暈を扱う研究の主要な変数となることが期待され、またこれまでに薬物に頼らざるを得なかった状況から、非薬物的な予防法や治療法の一助となる可能性があります。この研究の成果をより価値あるものにするためにも、さらにデータを集積させていきたいと思っています。

このような研究をとおして、超高齢社会が進む日本において一人でも多くの健康寿命の延伸に繋がるものとなるよう、引き続き研究に取り組んで参ります。



保健管理学研究室 講師
荒木 章裕

大分県立看護科学大学後援会からのお知らせ

★目的★

後援会は、大学の事業の援助、学生の福利厚生増進などを目的とし、学生活動の助成事業などを行っています。

★総会★

例年、入学式終了後、1年生の保護者を対象に開催し、予算の議決や決算の承認等を行っています。近年はコロナ禍のため書面開催となりました。

★役員★

保護者と大学関係者で構成されています。
会長：1年生保護者 副会長：3年生保護者、大学長
理事：1年生保護者、大学学部長 監事：4年生保護者

★トピックス★

コロナがなかなか収束しませんが、実習施設の協力のもと、昨年よりも臨地で実習を行うことができます。実習施設によっては、実習の受入にあたり、PCR検査や抗原検査で陰性の確認を求めることがあります。学生間で負担が不公平とならないように、その費用を後援会で補助しています。

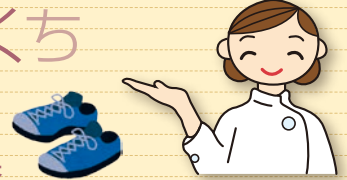
★事務局担当者のひとりごと★

大学生活は大人になるための準備期間とも言われます。周囲に流されず、自ら情報収集を行い、自分の頭で考え責任ある行動をする、そんな習慣が身につくとよいですね。充実した大学生活が過ごせるよう応援しています。(・v・)ガッパレ

お問い合わせ

大分県立看護科学大学後援会事務局
(大学事務局教務学生グループ内)
TEL：097-586-4300 (代表) FAX：097-586-4370
E-mail：info@oita-nhs.ac.jp

看護ひとくち メモ



ウォーキングの効果

少し、日差しも和らぎ、朝夕の散歩をするにはいい季節になりました。大学周辺では、犬の散歩をしている姿をよく見かけます。緑も多いですし、適度な坂もあり遊歩道も整備されているので、人にも犬にも散歩するには素晴らしいコースです。ウォーキングは、病気の予防や改善に繋がります。楽しみながら、散歩をしてみませんか？

ウォーキングの効果は…

1. 心機能を高める
2. 筋力低下を防ぐ
3. 体の循環が良くなる
4. 疲れにくくなる
5. 骨が強くなる
6. ストレス解消ができる
7. 脳の活性化
8. ダイエット効果
9. 生活習慣病の予防

さて、あなたは1日に何歩歩いているでしょうか？
認知症や心疾患、脳卒中を予防するなら5,000歩、生活習慣病を予防するなら8,000歩が1日の歩数の目安です。そのうちの20分くらい早歩きをしましょう。

時間が取れない方は、日常生活の中でルールを作ってみましょう。エスカレーターやエレベーターを使用せずに少し、回り道をして目的地へ向かう。目的地までの到着時間を決め、時間内の到着を目指す。さらに到着時間を1～2分早くすることで早歩きができ、効果的な運動となります。時にコースを変更して散歩道を歩くと脳の刺激になり、老若男女問わず認知機能低下が防げます。音楽を聴きながらも楽しいですよ。(事故にはご注意ください!!)

携帯に歩数計のアプリを取り込むと携帯をもって歩くだけで1日の歩数がカウントされます。日々、歩数を確認するのが楽しくなり、「今週は何歩以上歩こう!!」と目標ができますよ。無償のウォーキングでいろんなものを見て、いろんなものに触れて、心と体の健康をゲットしよう!!

看科大 [21号] クイズ・プレゼント

問題

令和5年度に〇〇〇〇〇領域に重点を置いたNPカリキュラムの改定を行います。

〇の中に正しい文字を入れ、下記のとおりハガキでご応募いただくか、クイズの答えなど1～5までを記載して、メール(koho@oita-nhs.ac.jp)でご応募ください。正解者の中から抽選で3名様に図書カード(2,000円分)をプレゼントします。

〒870-1201 大分県立看護科学大学 事務局 行	〒944-1929 大分市大字廻栖野 2944-19
1. クイズの答え 2. 郵便番号 3. 住所 4. 氏名(年齢) 5. 記事へのご感想や 本学へのご意見	

【締め切り】令和5年1月31日 当日消印有効
当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

Schedule [スケジュール]

1月	16日(月)～27日(金)	基礎看護学実習
	14日(土)・15日(日)	大学入学共通テスト
	28日(土)・29日(日)	大学入学共通テスト追試験
2月	9日(木)	助産師国家試験
	10日(金)	保健師国家試験
	12日(日)	看護師国家試験
	22日(水)	進級試験(2年生)
	25日(土)	一般選抜(前期)、 私費外国人留学生選抜
3月	1日(水)	春季休業開始
	2日(木)	大学院研究計画報告会(研究・広域・リカレント)
	3日(金)	修士・博士修了判定 研究成果報告会(研究・広域・助産・リカレント・NP)
	12日(日)	一般選抜(後期)
	16日(木)	卒業式
	4月	7日(金)
10日(月)	全学オリエンテーション	
10日(月)・11日(火)	新入生オリエンテーション	
5月	17日(水)	キャンパスクリーンデー
	20日(土)・21日(日)	若葉祭

※スケジュールは、変更になる場合があります。

